

福祉

毎日寒い日が続き、藤原岳が雪に覆われることが日常になっています。

今回は、福祉の科目「介護総合演習」の授業を紹介します。（前号では、「コミュニケーション技術」の授業を紹介しています。ぜひご覧ください。）

介護総合演習では、「地域福祉や福祉社会に関する基礎的な知識・技術を習得し、地域福祉や福祉社会における課題を発見し、創造的に解決できる。」ことを目標にしており、その実現の1つの方法として事例を通して学習することがあります。

例えば次のような事例です。

ある福祉施設に入所しているAさん（女性 83歳）はアルツハイマー型認知症を発症しており、見当識障害（時間・場所・人がわからなくなる）があります。

ある日、夕食を食べ終えたAさんは、居室に戻ると、自分の荷物をまとめようとしていた。あなた（介護職員）がAさんに声をかけると、Aさんは、「私、用事があるから家に帰ります。」と言いました。

問い あなた（介護職員）は、Aさんに対して、どのような対応をしますか？

授業で扱う事例は、生徒が介護現場に入ったときに実際に会う可能性が高いものを選んで作成しています。生徒たちは、提示された事例に対し、どのように対応するのかを考える中で、自分は何を大切に、どのような関わりをしたいと思っているのか、という介護における価値観である「介護観」を自覚化していきます。さらに、介護観をクラス全体で共有することで、そのような考えもあるのか。と自らの介護観を広げ、新たな介護観を形成していきます。また、事例の対応を考える中で、今の自分にできることや不足していることに気づき、必要な知識を学ぼうとする姿勢も見られました。



事例を読み込み、自分の意見を考えます。



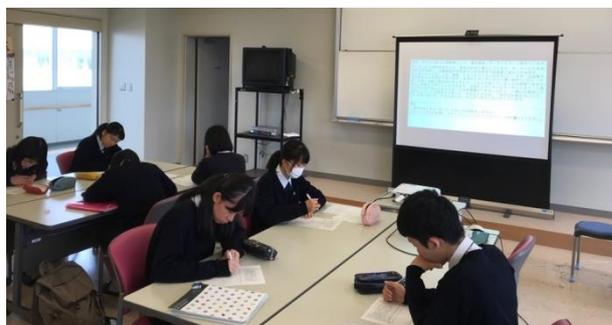
他の人と意見を共有することで、考えが広がり、深まっていきます。

実際に事例を通して学習した生徒たちは、次のように述べています。

- ・ただ問題(課題)を出されて、だからこうだね。というのではなく、事例から自分たちで課題、問題を見つけて、「じゃあ、こうじゃない?」と自分たちで意見を出すというのが、自分たちが授業の中心になっている気がして、すごく良かったです。意見も出しやすかった。
- ・事例を通して、多くの考えをきけて、私自身の視野が広がった。そして、事例からいろいろなことを考えられるようになった。例えば、利用者さんのことを考えるのはもちろんだけど、利用者さんと家族との関係や、抱えている悩み、利用者さんに関わる人たちがそれぞれ大切にしていること、利用者さんが住んでいる地域や生活環境など、考える視点が増えた。
- ・事例を用いることで、その時の状況のイメージがすっとできた。また事例の中の人の気持ちも考えやすかった。
- ・「実際にこんなことがあったらどうしよう」と介護の難しさを知った。介護の難しさを知ったうえで、自分なりの考えを出せたことが、とてもよかった。
- ・事例から利用者さんの情報を読み取る時、人によって情報の読み取り方が違う。「そんな風に情報を読み取ったんだ!」と私と他の人との考えの違いが知れて面白かった。

このように生徒たちは、事例の中の利用者さんの生活を、多面的に捉え、クラスメイトとともに課題を発見し、創造的に解決するための力を育んでいます。

授業の回数を重ねるごとに、生徒たちの意見は、広い視野を持って、深く考えられたものになり、授業者である私も生徒ともに多くを学ぶことができました。



事例からさまざまなことを読み取り、課題を多面的に捉え、するどい気づきや深く考えられた意見が多く見られました。